

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2590400053
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会
事業所名	グループホーム しのだ
訪問調査日	平成 20 年 6 月 16 日
評価確定日	平成 20 年 6 月 23 日
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2590400053		
法人名	社会福祉法人 ほのぼの会		
事業所名	グループホームしのだ		
所在地	滋賀県近江八幡市上田町540-1 (電話)0748-37-1540		
評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成20年6月16日	評価確定日	6月23日

【情報提供票より】(20年6月1日事業所記)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 19 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.5 人	

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋建て(耐火構造)の 1 階 ~ 1 階部分		
------	--------------------------------	--	--

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	29,100 円	
敷金	有() 円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/○無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	650 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,700 円			

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	82 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	近江八幡市立総合医療センター、ヴォーリズ記念病院、神埼中央病院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年6月1日に設立された新進のグループホームである。経営母体は、同町にある社会福祉法人で特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、居宅介護支援、訪問介護、グループホームなど、総合的な介護福祉施設を構築・運営しており、そのノウハウや運営上の支援を受けられるメリットを有している点がこのホームの大きな特色と言えよう。北側には篠田神社、東には安土の観音寺山が望まれるのどかな田園地域の自然環境に恵まれたところに位置し、純和風の建築もよくマッチしている。今春からスタッフも一新して、利用者・職員の明るい笑顔と話し声が印象的で、これからの進展が大いに期待されるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	初回の受審であり、該当事項なし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が骨子を作り、スタッフ全員に要点を説明し完成させた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	前年度は1回の開催にとどまっている。討議内容は、グループホームの活動内容紹介、現場見学、質疑応答、認知症の理解など広範囲にわたっている。その結果地域との交流のきっかけ作りとなっている。開催回数増加とより強い支援体制が作れるよう、構成員数を実務中心に絞り込むことを考慮されたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪頻度が高く、その機会を捉えて意見聴取し、期待にこたえるよう努めている。苦情箱の設置や家族会の結成に向けて、目下はイベント(直近では5月4日の篠田神社の花火夕食懇談会など)を利用して参加してもらおう様努力中である。苦情申立先については、当施設の相談室以外に行政機関、その他の苦情窓口についても重要事項説明書に明記されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入し、可能なものから活動参加を行っている。ホームに隣接したゲートボール場に顔を出したり、野菜を差し入れていただく先など隣近所のご挨拶を通じて顔馴染みになれるよう努めている。奉仕活動(草引きなど)、近くにある中学校との交流などを目指して、まさに動こうとしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人・ひとりに合わせて、ゆっくり、ゆったり、のんびりと」を理念として、運営している。	○	介護保険改正の趣旨を生かして、地域密着の中での生活を目指す理念を構築して欲しい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	食堂とリビングをかねた吹き抜けの居間サロン正面に、大きな墨字の理念が掲げられている。職員のミーティング時には、常に確認徹底をしながら活動に生かすよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、可能な活動(イベントなど)から参加している。奉仕活動など、より積極的な活動に取り組もうとしているところで、まだ地域との双方向の交流実現までにはいたっていない。	○	近くの中学校との交流が考えられているので、ぜひ実現を図って欲しい。また地域に向かって積極的な認知症理解の情報発信を行うなど、事業所と地域の人が支えあう双方向の基盤作りに取り組んで欲しい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義を十分理解しており、自己評価もリーダーシップを発揮し完成させ、問題点、サービスの質改善の気づきを確認し、改善計画書を作成して取り組みを開始している。		取り組み課題については序列付けをして、一つ一つ着実に成果を挙げていてもらいたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度1回実施している。構成メンバーは、学識経験者、上田町組代表、前自治会長、民生児童委員、市職員と事業者側からは理事長、施設長、管理者の3名が参加している。議題は、グループホームの活動内容の紹介、現場見学、質疑応答の中で認知症の理解などを得て、地域交流のきっかけ作り貢献している。	○	2ヶ月に1回の開催が期待されている。それを可能にする内外の条件整備が必要と思われる。地域密着の活動展開には、この会議メンバーのアドバイスや支援が不可欠であり、前進するよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政との関係作りには、積極的に取り組んでおり、困難な問題が発生の都度相談し的確なアドバイスを得ている。		これからも良い関係を益々発展させて行く事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	今春の新体制以降は、管理者を中心にスタッフも協力して、家族への連絡に努力を払っている。月1回の定期便(請求書送付時に写真や近況を伝えるメモ同封)を全員に広げるよう努力中である。家族の来訪も多く、その対応の中でも、極力情報交換に努めている。家族アンケートからもこうした努力は高く評価されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や苦情の窓口は、ホーム側のほか行政、その他機関についても説明・明示している。家族の来訪時に、要望・苦情などを積極的に受け入れるよう努力している。今後は苦情箱の設置、家族会の発足の実現に向け、目下詰めの努力中である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新設1年の中で、管理者、常勤職員4名が交代する大手術を行い、新体制確立を行った。新管理者とスタッフ全員が協力して、利用者のダメージを最小限に防ぐ努力を行った結果、利用者の笑顔と感謝の言葉が取り戻されてきている。		運営者の適切な決断が、利用者のダメージを最小にとどめることとなった。この結果を大切に、今後の運営に活かされるよう期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人内で行われる研修(感染症対策、緊急時対応、避難訓練など)には、全員参加できるよう調整を行っている。外部研修については、案内を掲示板に張り、希望者には可能な範囲で受講できるよう努めている。	○	研修の重要性については、理解し積極的に取り組もうとしている。出来れば、個人の希望を考慮しつつ個人別の育成計画をまず作成し、この計画に従い個々の研修を位置付けてもらいたい。また研修受講後は、結果を発表する機会を設けてもらいたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東近江事業者連絡協議会グループホーム部会に管理者が参加し、それぞれの事業所が抱える問題点などを共有し、解決に向けての話し合いを行っている。一般職員については、同一法人内のグループホームと交流し、サービスの質の向上に努力しているが、他のグループホームとの交流までは行っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームに来てもらい、他の利用者と馴染みの関係作りを行った後、入居となるよう努めている。フェースシートなど、家族からの聴取を含め、情報収集に努め、早く馴染みの関係が出来るよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員のヒアリングでも、食事中的会話でも、常に教えられているとの発言があり、利用者からの感謝の言葉も絶えず、お互いに支えあっている関係が実感できた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント、家族の来訪時を利用した情報聴取などから情報収集がかなり出来ている。日々の関わりの中から、本人の希望や意向の把握に努めている。		センタ方式採用も検討しているので、うまくスタートするよう期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の来訪が多く、その都度情報交換を行い、月1回の課内会議(ケース検討)を通じて共通の計画作成基盤を作り、介護計画を作成している。状況急変時の医療受診の際は、可能な限り管理者が同行して、情報の把握と主治医との相談をスムーズに行うよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	過去1年間の実績を見ると、介護計画の見直しは平均6ヶ月毎に行われている。その間のモニタリングは記録に残されていない。新体制に入り順次介護計画書の作成、モニタリングシートが加わってきている。	○	今後定期的(3ヶ月毎)に介護計画の見直しを行い、毎月のモニタリングとあいまって、現状に即した介護計画作成を軌道に乗せてもらいたい。また、介護計画書やモニタリングシートに家族のサイン・日時の記入が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援、外出支援は、柔軟に対応している。医療連携体制を取ってはいないが、同一法人内の看護師にサポート(緊急時のTEL相談など)を得るなど、利用者にとって有意義なケアを提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者9名中8名まで以前からのかかりつけ医に受診している。基本的には家族が受診の介助をしているが、緊急時や家族の都合により不可能な場合には、施設側で柔軟に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去1年間の記録には、明確な記述は見られなかった。新体制に入ってから、順次話し合っってゆこうとしている。	○	施設側の基本的な考え方を説明した上、家族・本人・かかりつけ医と話し合い、方針の共有を行って欲しい。また高齢化に伴い刻々と変化する状況に応じ、繰り返し関係者との話し合いを行って、方針の共有を確認していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	書類などは施錠された保管庫に保管されている。また利用者一人ひとりに対する職員の態度は、トイレの誘いかけについても見られるように各人の尊厳を傷付けないものであった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の状態を把握しながら、各人の特性を生かせるよう配慮していることがうかがわれた。午後の散歩でも、行きたい人、元気十分でない人には車椅子使用を、体調によって他の事を勧める人、昼寝を好む人など、色々配慮されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は、近隣の商店で食材を購入し調理している。昼食・夕食は、外部の給食会社から購入した食材とレシピにより調理している。利用者は調理、配膳、後片付けなどに関わって楽しい雰囲気を作っている。食事時は利用者、職員全員で同じ食事を摂り、話し声や笑い声で楽しい時間となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴回数は、2日に1回の割合で、柔軟に利用者の希望に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や特技の把握は職員が良く行っており、それに即した行動がとられているのが目に付いた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援は日常的に行われている。家族の方々の訪問が多いのは、外出時の協力を得られる分利用者にとっても非常にメリットが多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者はじめ職員も鍵をかけないケアについては十分理解している。しかしながら現状ではある利用者の特性から、一部分それが出来ない状態にある。その状態改善が喫緊の課題であり、将来的には、完全なキーフリーの実施を目指している。	○	課題解決がスムーズに行くことを期待したい。廊下から庭に出る大きなガラス戸の鍵が、緊急時に問題となる可能性があり、検討してもらいたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	警備保障会社との契約が行われている。夜間2回の確認電話(0時と4時)と1回(2時前後)の巡回警護が実施されており、職員の大きな安心に繋がっている。また緊急マニュアルも整備されている。管理者職員共に避難方法・避難場所はよく認識している。		近隣地域との連携協力が得られるよう関係強化を進め、災害時の対応の確実性を高めるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は克明に業務日誌に記載している。水分摂取量については、要観察者2名の方に限り、CC単位で克明に記載している。		今後水分が摂取困難になったときの対応方針を用意し職員に徹底するよう期待したい。また要観察者にとどまらず全員に管理をひろげる様期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	東屋を横したコーナー廊下のベンチなど心和む場所となっている。台所は清潔で広々としており、利用者との共同作業にも十分余裕がある。居間サロンの吹き抜けは圧迫感を緩和し、明るい雰囲気をかもし出すと共に利用者に安堵感を与えている。またサロンに設置されている館内観察用のテレビモニターは、利用者の安全にとって大いに役立っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	簡素ではあるが各人好みに合わせた部屋作りが出来ている。それぞれの部屋で、各人の生活が営まれているのを感じることが出来た。また、各居室に消臭効果のある竹炭を設置している		加齢と共に薄れてゆく自分の部屋への認識を確認してもらう方法を、暖簾の色分けなどで考慮することも必要と思われる。